

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第644号 2023年10月8日

「呼ばれた者の集まり (エクレシア=教会)として」 主任司祭 ミカエル鈴木 真

今年は4年ぶりの行動制限のない夏となり、いろいろな行事などが戻ってきて、何かとバタバタと忙しい夏を送りました。

特に青少年関係では、教区の高校生の夏合宿と教区学連(大学生の活動)の夏合宿を、ともに1泊2日ではありましたが、再開することができました。やはり若者にとって、寝食を共にする合宿というのは、絆を深めるとともに同じ信仰をもった仲間としての実感が持てる貴重な機会であることを改めて感じました。とは言え、コロナの3年は長かった…。コロナ前は、それこそ年に6回、それも2泊3日や3泊4日の合宿をこなしていたのですが、3年の間に体力が落ちたのか、はたまた単に歳をとったということなのか、1泊2日の合宿でも体がボロボロでした…。わたしはもっぱら食事を作ったので、なおさらだったのかもしれませんが。ちょっとリハビリが必要だ…なんて思っちゃいました。

逆の気づきもありました。わたしが座長を務める「共同宣教司牧サポートチーム神奈川」では、コロナ前は毎年秋に「信徒・修道者・司祭が共に信仰を深める宿泊交流会」を1泊2日で行っていましたが、コロナになってできなくなり、それでも何とか対面での信仰の分かち合いをやりたいと、昨年から半日企画の交流会を、年2回に増やして開催してきまし

た。すると、大人にとっては宿泊というのはハードルが高いけれど、半日なら…となかなかの参加者が集まりました。県内のいろいろな地区の教会を会場として開催したのも、その周辺の地区の方々が集まりやすい、ということでご好評でした。今後は他県にも出張…ということも視野に入れて考えています。

というわけで、コロナ禍の3年を経て、改めて、さまざまなことを感じ、振り返ることとなったのは、「災い転じて福となす」神さまのわざだな、と実感します。そのような中で、何よりも、やはり「集まる」ことのできる恵みが、いかに尊いことであるかを今更のように感じました。

何かの折に引き合いに出すことですが、「教会」と訳された〈エクレシア〉というギリシャ語は「呼ばれた者の集まり」という意味だそうです。教会は、できたそのときから、これは自分たちが勝手に集まっているのではなく、神さまによって呼び集められたものなのだ、と強く自覚し、自らを〈エクレシア〉と呼びました。そのことは、わたしたちの信仰の土台に「呼ばれる」という要素があることを、いつでも示唆しています。つまり、常に神さまのわざが先行している、ということでしょう。

集まることのできる喜び、呼び集められている恵みを噛みしめながら、これからも、さまざまなレベルで、そして、いろいろな場所で「教会」としての歩みを続けていくことができるよう、心から願っています。

鈴木真主任司祭 主日ミサ説教

2023年7月2日 年間第13主日 A年
マタイ福音書 10章27-42節



「わたしよりも父や母…息子や娘を愛する者はわたしにふさわしくない。」

イエスの時代のパレスチナでは、言わば「血縁」がすべてでした。そんな中、それよりももっと大切なものがある、というわけです。実際、できたばかりの教会では、その「血縁」を捨てて、キリストの共同体に行くことが求められたのでしょうか。まあ…わたしなんかは逆に、血縁…家族や親戚を普段あまりにないがしろにしてることに日々、反省しているような状態ですが…。

「この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は…」イエスの時代、どうやって「冷たい水」をつくっていたかというと、素焼きの壺にいっぱい水を張るんだそうです。すると「素焼き」ですから、どんどん水が染み出てきます。そして、壺の外側に染み出した水滴が冷却効果を生み出し、ほんの一杯壺に残った水が冷たくなる…というわけです。当時最高のもてなし、と言われたものの一つだそうですが、問題は誰をもてなすのか。「小さい者の一人に」…これこそ福音的価値観による行動に他ならないでしょう。

「自分の十字架を担ってわたしに従いなさい」…いつも言うようにこれは、何か自分が背負わされている不幸を受け止めよ、ということではなくて、イエスのように全身全霊で、命がけで人を愛せ、ということなのだと思います。まあ、もちろん、それはそんな簡単ではありません。イエスさんのように愛することはとてもできない…とってしまいますが、だからこそ「愛させてください」と神さまにお

願いする必要があるのでしょう。

「最も小さい者の一人」に、いつも目を向けることができるよう、祈りたいと思います。

2023年7月9日 年間第14主日 A年
マタイ福音書 11章25-30節

「疲れた者、重荷を負う者は、誰でもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。…そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。」

この「休む」「安らぎを得る」と訳された言葉は、聖書では特別の意味を持ちます。訳語どおり“体を休ませる、元気を回復する”という意味もありますが、もとにあるのは〈もとの姿に戻る、もといた場所に帰る〉ということだそうです。そこから、いろいろな意味で使われます。「永遠の安息」のように死後の状態を指すものもあるし、「安息日」などもこの意味、つまり1週間のうちせめて1日は、わたしたちのおおもとである神さまに心を向ける日にする…といった用法も見られます。要するに、本来わたしたち人間のあるべき姿、状態…と言っているでしょう。それが「イエスという方のところ」というわけです。

「柔和」「謙遜」と訳された言葉は、もとは“身を低くする姿勢”を表すものだそうで、そこから「貧しい」「小さい」や「礼拝を捧げる」という言葉にも派生していきます。つまり、神さまの前に置かれた者の姿、に他なりません。イエスというお方こそ、わたしたちが神さまの前に置かれていることを思い起こさせてくださる、そして、その神さまにどのように向かうべきかを教えてください…ということです。

「これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。」…「幼子」は自分の力では何もできないので、親に頼りきっています。わたしたちも「自分で」何かをしようとするのではなく、まずは「神さまに」自分のすべてを委ね、頼りきることから始まるのでしょう。「わたしの軛（くびき）は負いやすく、わたしの荷は軽い」と言われたイエスのもとへと、いつも心を向けたいと思います。

(撮影：編集部 土方芳人)

平日の朝7時のミサが3年半ぶりに再開

平日の朝7時のミサが2023年9月5日より再開されました。

2019年の聖堂修繕の第1期工事中も教会ホールで続けられていましたが、2020年に入るとコロナ禍のため中止になりました。2023年になり教会の諸行事が順次再開されている中で、平日の朝のミサも満を持しての再開です。平日の朝のひと時を心静かに過ごしてみたいかがでしょうか。当面は火曜日のみ行います。



(ヨゼフ会 会長 岡崎芳浩)

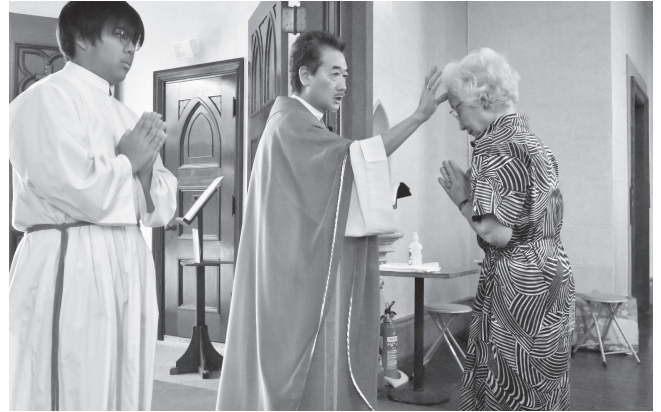
「病者の塗油」の秘跡

9月17日(日)11時30分ミサが主任司祭・鈴木真師司式で執り行われ、その中で「病者の塗油」の秘跡が77歳以上の希望者に授けられました。

2018年までは、毎年、「病者の塗油」とミサ後に教会ホールで敬老会の祝賀会が開催されてきました。2019年は聖堂修繕工事の関係で教会ホールが使用できないため、「病者の塗油」のみとなり祝賀会は中止。2020年から新型コロナウイルス感染症がはやり、2022年まで感染対策として「病者の塗油」と祝賀会は中止されていました。

今年は、久しぶりにミサの中で鈴木師、ダリル・ディニョ助任司祭、司祭・信徒館で生活されている磯子教会協力司祭の内藤聡師により「病者の塗油」が授けられました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響などから教会ホールでの祝賀会は今年も中止となり、ミサ後にシルバーケア・グループと

ロザリオ会のメンバーから記念品(紅白饅頭)が手渡されました。聖堂には多くの「病者の塗油」を希望する信徒が参加され、両側の席も、ほぼ埋まりました。信徒同士が久しぶりの再会を喜びあう姿も多く見られました。



鈴木師による塗油



内藤師(左側)、ダリル師(右側)による塗油

(編集部 土方芳人)

聖堂での防災訓練実施

今年は関東大震災から100年ということで報道やイベントが盛んになされていましたが、ここ山手教会にとっても2代目の聖堂が崩壊し、就任間もない主任司祭のルバルベ神父様が犠牲になったという悲しい出来事が記憶されています。現在の聖堂は、この度の改修工事でも明らかになったように、現在の耐震基準でさえもいまだにクリアできる堅牢な建物として関東大震災から約10年後に再建されました。

今年の防災訓練は関東大震災から100年ということもあり、9月に行いたいということで日本語のミ

サでは9月9日（土）と9月10日（日）に、英語ミサでは9月17日（日）に、それぞれ計4回行われました。17時のミサでは約70人が2分30秒で、7時半のミサでは約100人が2分30秒で、11時半のミサでは100人以上が3分30秒で、英語ミサでは200人以上が2分30秒でそれぞれ避難を完了できました。

今年は事前のお知らせをしないでなるべく本番に近い状態で行いましたが、昨年とほぼ変わらない時間で避難が完了でき、毎年続けることの大切さを改めて痛感しました。



頭を保護して(撮影：宮氏)



横の出口も利用して(撮影：宮氏)



車椅子の場合も想定して(撮影：坪井氏)



外へ脱出しました(撮影：宮氏)

(撮影：宮 裕一、坪井 暢

文：防災委員会 委員長 小倉 謙)

ロザリオ会巡礼

2019年の松が峰教会を最後に、長い間中止されていたロザリオ会の巡礼をやっと4年ぶりに行うことができました。以前のようにバス1台で教会から出発というのではなく、現地集合現地解散です。9月6日（水）水上神父様が主任司祭となっている逗子教会のミサに参加するのが目的です。水上神父様と鈴木神父様、ダリル神父様の共同司式です。水上神父様は山手教会で信徒として長年にわたりバザーなどの行事に奉仕された後の司祭叙階でしたから、ロザリオ会とも大変なじみ深い方です。当日は逗子教会の方々が温かく迎えてくださり、雨は降りませんでしたが蒸し暑い中でのお茶のおもてなしは、本当にありがたいものでした。ミサは10時半に開始、水上神父様の声が聖堂にはっきりと響き、皆が心をひとつにして祈ることができました。その日の聖書朗読は、ルカ4章の38節から44節、悪霊が病人から出て行ったというお話です。お説教の中で水上神父様は、遠く離れているのに悪霊はイエス様がメシアであることを知っていたことに注目して話されました。そして、聖書の言葉は、過去でも未来でもなく現在であるということを強調されました。さらに、山手教会で、いろいろお世話になったロザリオ会のメンバーの前で、こうして司式をする喜びも、なごやかに話されました。逗子の平日のミサでは共同祈願はしないということを知らずに、バ

ザーなどで共に奉仕された2人のロザリオ会メンバーに共同祈願をお願いしていました。それが無にならないようにと、逗子教会の方が配慮してくださり、ミサの最後に水上神父様への感謝の思いとこれからの日々豊かにお恵みがありますようにとのお2人の共同祈願が唱えられました。聖堂の船越桂さんが作られた優しい表情のマリア像を眺めながら、この巡礼に参加したすべての人が幸福な時を過ごすことができました。私が長く教えていた文化学院という学校は、桂さんのご両親の母校でもあり、お母さまの道子さんが描かれたパステル画が職員室に飾られていたことなども、懐かしく思い出されました。逗子教会の『潮路』という教会報に水上神父様はこんなことを書いています。

「星の王子様の中に、かんじんなことは目には見えないとあります。神様は見えないのに信じることで考えてみれば、とても不思議なことだとは思いませんか？」これは王子様が狐に出会って最後に別れる時に狐が教えてくれた秘密です。パンを食べない狐は、それまで麦の穂を見ても何も感じなかったけれど、王子様の金髪を思い出したら、金色の麦の穂も、そこを渡っていく風の音も素敵に思えるだろうと言ってから、この秘密を伝えるのです。物語の中では、狐は常に悪者ですが、この物語の狐は、わがままな王子様に哲学者のように真理を語る存在です。水上神父様も王子様がひょっこりと狐に出会ったように、目に見えない神様に出会われたのだろうと想像しました。楽しみにしていたのに体調を崩して参加できなかった人たちのためにも心から皆で祈り、そして、また楽しく昼食の食卓を囲み、心も体も満たされた素晴らしい巡礼となりました。



マリア像



水上師



水上師とともに

(ロザリオ会 広報 山本 紀志子)

横浜市麦田地域ケアプラザでの ボランティア・コンサート

私たち山手教会聖歌隊は、年に2度、麦田地域ケアプラザのデイサービス利用者のためのコンサートを依頼されます。コロナ禍のときはできませんでしたが、昨年クリスマスから復活しました。ただ、去年は利用者の方でコロナに感染した方がいらしたので中止となりました。ですから9月17日(日)敬老週間でのコンサートは、久しぶりに聖歌隊として皆さんに歌をお聞かせする機会となりました。秋にちなんだ唱歌の数々、そして、「いつくしみ深き」、ラテン語の「Panis Angelicus」「あめのきさき」と3曲の聖歌、その後にアイザック・ディネーセンの『オウム』という短い物語を朗読しました。今年の3月に亡くなった聖歌隊メンバー鈴木理恵子さんが、こうした朗読劇で登場人物のセリフを巧みに演じ分けてくれていたのを思い出します。そして、最後は聖歌隊のテーマソングと呼んでいる「ガリラヤの風」で締めくくりました。懐かしい唱歌に手拍子をしたり共に口ずさむ利用者さんの姿には、いつも感動させられます。一つ気がかりだったのは、毎年いらしていたロザリオ会の方の姿が見えなかったことです。どうぞお元気でいてくださるようにと祈りながら歌いました。聴いてくださっている方々の顔を見ていると、本当に私たちの方が幸福のかけらをいただいているのだという思いになります。「ありがとう！」という言葉をかけていただくので

すが、それは、こちらから皆さんに伝えたい言葉であると思っています。今度はクリスマスのコンサート、またあの楽しそうな顔を思い浮かべながら、練習に励みたいと願っています。



演奏する聖歌隊メンバー



指揮：三枝木隊長



朗読



利用者の方々も一緒に歌う

(撮影：横浜市麦田地域ケアプラザ)

文：聖歌隊 副隊長 山本 紀志子)

ロザリオ会便り

久しぶりの巡礼も無事に終わり、敬老の日の前の日曜日、お祝いの紅白饅頭もお渡しでき、ほっとしているところです。このようにロザリオ会として再び活動することができるようになると、共に働く人は多ければ多いほどよいと思います。多過ぎるということは決してありません。11月には福祉委員会と共催のミニバザーも控えていますし、結婚式も少しずつ増えてきました。また、船員さんのための帽子も協力して編んでいきます。今年度は、新しい役員の方の協力を支えられてやってくることができました。来年度に向けて、さらに新しい方の参加を募りたいと思います。どうぞ少しの時間でも教会のためにロザリオ会の仕事を分かち合っていたきたいと心から願っています。

(ロザリオ会 広報 山本 紀志子)

2023年9月度教会委員会議事要約

日時：2023年9月3日(日) 13:00～15:20

場所：司祭・信徒館1階「松・竹」

議事内容（議事進行：小倉委員長）

1 主な審議確認検討事案 ※順不同

(1) 電気供給契約更新について

- 電気供給契約は12月に更新となる。9月中に更新の意思を回答する必要がある。

【決定事項】

- ・ 司教館の意向を確認。

(2) 来年度予算策定について

- 来年度予算を策定するにあたり、単発での大きなイベントを予定している場合には早めに申し出をお願いしたい。

(3) 関東学院六浦中学校1年生の見学について

- 9月15日(金) 関東学院六浦中学校1年生が9:30から10:00の間でグループ毎に見学に来る。

【決定事項】

- ・ 了承する。

(4) トイレ掃除について

- コロナ禍前のように全てボランティアで担うこ

とは難しくなっているため、定期的に(年に4回ほど)業者に依頼することにしてもよろしいか。

【決定事項】

・了承する。

(5) 教会案内パンフレットについて

● 現行の三つ折りのパンフレットの更改について印刷会社の選定を含め再検討したい。

【決定事項】

・了承する。

(6) 山手教会ホームページについて

● ホームページについて、見やすさの改善を実施したいと考えている。

● 英語のページに関してもICCから話を伺っている。

【決定事項】

・了承する。

(7) 聖堂コンサートについて

● 聖堂コンサートに関しては演奏家の方から現状3件の依頼が来ている。

【決定事項】

・3件とも了承する。

・今後は、教会行事を優先したうえで月1回程度を目安とする。

(8) クリスマスミサについて

● 今年のクリスマスの会場をどうするかを検討を開始したい。

【決定事項】

・次回教会委員会で決定する。

(9) 備蓄品について

● 賞味期限が迫っている備蓄品がある。

【決定事項】

・ミルクビスケットについては、寿町への支援に提供する。

・その他の備蓄品、備蓄品の補充などについては、別途審議とする。

(10) 避難訓練について

● 避難訓練の実施を検討されたい。

【決定事項】

・9日(土)10日(日)の日本語ミサの後に実施する。

2 今後の活動、報告事項

【横浜教区神奈川第3地区共同宣教司牧委員会について】

● 10月8日(日)15時より戸部教会にて開催。

【ICCより】

● 9月10日(日)ICCミサで司教様が司式。

● 11月に長崎巡礼を予定。

【ロザリオ会より】

● 9月6日(水)逗子教会へ巡礼。

● 9月17日(日)敬老会ミサ。

● ロザリオ会主催ミサは10月6日(金)10時より。

【福祉委員会より】

● ミニカフェを9月24日(日)の12時頃より教会ホールで実施予定。

【追悼ミサについて】

● 11月4日(土)10時から追悼ミサを行う。

● 合葬墓の納骨は同日13時より実施。

【幼稚園より】

● 10月15日(日)幼稚園説明会を行う。

【典礼委員会より】

● 聖体拝領の聖体奉仕者5人が新たに任命された。

3 主任司祭から

● 9月18日(月)19日(火)に教区学連の合宿を行う。

● 9月24日(日)子どもとともにささげるミサに、片瀬教会の教会学校の児童と保護者が参加する。

● 今月から子どもとともにささげるミサが再開されるので、幼児洗礼の申し込みがあれば、その中で行う。

4 次回教会委員会

2023年10月1日(日)

13時00分～15時00分終了予定。

(総務担当 宮 裕一)



2023年10月・11月主日ミサの聖歌および奉仕者予定表

	主 日	聖 歌			聖歌隊	時 間	奉 仕 者				備考
		答唱詩編	アレルヤ唱	ミサ曲			オルガン	先 唱	聖書朗読		
10月8日	年間第27主日	典80 ④⑤⑥	典270 年間27A	ミサ曲A 典605～9	*	前日pm5:00	村 松	竹之内	新井田	島田(節)	
						7:30	太 田	二 宮	東海林(珠)	時 久	
						11:30	佐 藤	遠 藤	石 田	中 野	
15日	年間第28主日	典123 ①③④	典273 年間28A	ミサ曲A 典605～9	*	前日pm5:00	村 松	齋 藤	小佐井	福田(直)	
						7:30	渡 邊	末 澤	石 川	工 藤	
						11:30	米 沢	村田(義)	中 川	岩 隈	
22日	年間第29主日	典148 ②③⑤	典270 年間29A	ミサ曲A 典605～9		前日pm5:00	藤 沼	工藤(元)	飯 塚	志 村	
						7:30	手 塚	亀 井	古 谷	藤 本	
						11:30	太 田	子どもとささげるミサ			
29日	年間第30主日	典64 ①③⑥	典273 年間30A	ミサ曲A 典605～9		前日pm5:00	忠 海	宮	羽 石	阿部(眞)	
						7:30	渡 邊	時 久	梅田(啓)	早川(眞)	
						11:30	中 川	小 倉	小松(美)	荻原(恵)	
11月5日	年間第31主日	典74 ①②	典270 年間31A	ミサ曲A 典605～9	*	前日pm5:00	村 松	工藤(元)	新井田	島田(節)	
						7:30	中 川	石 賀	島田(啓)	武田(登)	
						11:30	手 塚	山本(紀)	後藤(由)	紀國谷	
12日	年間第32主日	典10 ①②③	典274 年間32A	ミサ曲A 典605～9	*	前日pm5:00	太 田	齋 藤	小佐井	福田(直)	
						7:30	中 川	二 宮	田口(利)	神 近	
						11:30	佐 藤	遠 藤	室 崎	木原(眞)	
19日	年間第33主日	典103 ①②	典274 年間33A	ミサ曲A 典605～9	*	前日pm5:00	藤 沼	竹之内	飯 塚	志 村	
						7:30	渡 邊	末 澤	早川(眞)	細谷(雄)	
						11:30	米 沢	村田(義)	池田(恵)	上 瀧	
26日	王であるキリスト (年間第34主日)	典123 ①③④	典266 王である キリスト	ミサ曲A 典605～9		前日pm5:00	忠 海	田中(麻)	羽 石	阿部(眞)	
						7:30	手 塚	亀 井	東海林(正)	津久井	
						11:30	太 田	子どもとささげるミサ(初聖体)			

編 集 後 記

奈良公園の鹿を優しく見守る奈良の人々。2021年の春に「桜と神社仏閣」をテーマに奈良へ撮影に行ったときの撮影データを見直して、思い出したことがありました。それは、奈良の人々が鹿を優しく見守っていたことです。鹿は奈良公園にいて、特に春日大社付近に多くいます。公園は広く、園内を信号機のある2車線・4車線の道路が数本通っています。滞在中に、この公園に3回ほど撮影に行きましたが、鹿が交差点の横断歩道の信号が黄色から青に変わるのを待って横断歩道を渡っているのを数回見かけました。皆さん、信じられないかもしれませんが、鹿は交差点でじっと待っていて、すべての車が止まり、安全であることを確かめてから悠然と道路を横断し始めるのです。鹿は、ゆっくり歩くため、反対側に渡りきれずに途中で信号が赤になってしまうこともありました。その場合でも、左右の車は鹿が道路を渡り終えるまでクラクションを鳴らすこともなく、鹿を驚かせないように気長に待っており、渡り終えると同時に一斉に走りだしました。これは一つの例ですが、鹿は奈良、特に奈良公園の風景の一部として完全に溶け込んでいました。余談ですが、春日大社から二月堂・東大寺に向かう途中の若草山付近で、昼食のためベンチに座り、リュックサックから紙包みを取り出すと、付近にいた鹿5～6頭が鹿せんべいをもらえんべいをもらえんべいと思ったのか小生を取り囲み、食事をしている小生の口元に大きな顔を寄せてくるのには往生しました。(土方芳人)

☆表紙のカット(山手教会)は、濱尾文郎枢機卿様の「えはがき」です。